

<公開用>

平成 30 年度 第 2 回 大山崎町留守家庭児童会育成事業 (放課後児童クラブ) 運営協議会 会議録

日 時 : 平成 31 年 2 月 25 日 (月) 午後 7 時～9 時

会 場 : 大山崎町役場 3 階中会議室

出席委員 : 石田委員、森 (一) 委員、壺内委員、野田委員、田中委員、
辻野委員、西村委員、越智委員、森 (か) 委員、辻委員

参 考 人 : なかよしクラブ保護者会 辻純平氏
ともだちクラブ保護者会 井上里美氏
チャレンジクラブ 森賢悟氏

町 教 委 : <事務局>

堀井生涯学習課長 (事務局長)、上田生涯学習・スポーツ振興係 Ld、
内藤同係主任、阿部指導員

傍 聴 者 : 2 名

次 第 :

1. 開会
2. 参考人の紹介
3. 配付資料確認
4. 議事
 - (1) 資料説明
 - (2) 現在の保育状況
～ビデオ映像を用いて報告～
 - (3) 参考人意見聴取
 - (4) 協議 (意見交換)
5. 閉会

会 議 録 :

<開会>

※省略

<出席委員数確認>

※10 名中 10 名の委員出席につき、会議の成立を確認

<参考人紹介 ～ 配付資料確認>

※省略

<傍聴者入室>

<公開用>

※傍聴者2名が入室

<資料説明>

※事務局から配付資料1,2,3の説明

<保育状況説明>

※保育現場の映像を用いて事務局から説明、委員から補足説明

<資料説明と保育状況説明に関する質疑>

○会長

資料1にある「わんぱくクラブ」「チャレンジクラブ」は共に今も活動されているのか？

○事務局長

大山崎小学校の「わんぱくクラブ」は活動を終え、解散されている。「チャレンジクラブ」は現在も活動されており、本日、参考人としてお越しいただいている。

<参考人意見聴取（5，6年生の受入れに対する意見について）>

○参考人

5，6年生になると、本当に学童が好きな子が通うのだろうと思う。受け入れに際して気になるのは集団での活動。5，6年生になると遊びの中身も変わってくると思う。これまでから異年齢集団での縦の関係は大切に構築されているが、5，6年生の横のつながりも大切になると思う。現状、4年生がリーダー、3年生がサブリーダーを務めているが、5，6年生が加わると、この役割を5，6年生に移行するのか。5，6年生の姿を見て下が育つということもあると思うので、これはこれで良いと思うが。一方、規模の問題は気になるところ。そこは工夫して、よりよい形で受け入れ方法を検討して欲しい。

○参考人

私のクラブでは、去年、今年と4年生は1名のみ。過去に一番多い年でも5～7人程度。正直、仮に5，6年生の受入れが開始されても、今のクラブのエリアだけで5，6年生が集まるのかなと思う。

施設面も大事だが、ただ受け入れるのではなく5，6年生にとっても1～4年生にとっても良い保育となるよう、保育内容をしっかり考えることが必要と思う。

○参考人

資料1枚目はチャレンジクラブの概要。発足当時は保護者会運営であった

<公開用>

が、2001年頃からNPO法人として活動している。第二大山崎小学校区にある木造2階建て一軒家を法人で所有し、これを専用施設として活動している。会費（会員の月々の利用料）と寄附金により自主運営している。寄附金は保護者会のバザーなどで捻出。

小学部（5、6年生）、中学部、高校生が活動するWINGに分かれて活動しており、小学部は毎週水・金・土曜日に、長期休暇中は平日毎日開所している。中学部は毎日夜間に開所、WINGは週1回開所している。

スタッフは、専従で私1名。このほか、主にチャレンジクラブOBの大学生ボランティアがいる。

資料2枚目は3月発行予定のチャレンジクラブ通信。季節ごとの年間活動内容を写真付きで掲載しており、分かりやすいかと思ひ資料として用意させていただいた。

○委員

5、6年生を対象とした活動を現にされているチャレンジクラブさんに、5、6年生の発達度合いから留意すべきこと、普段どのようなことを考えて活動されているのか伺いたい。

○参考人

高学年向けの学童保育には大きく3つの機能が必要と考えている。

1つ目は、低学年と同じく安心・安全のための保育の機能。

2つ目は、学校でも家庭でもない第3の居場所としての機能。

3つ目は、子どもだけではできない活動ができる、活動拠点としての機能。

1つ目の保育機能については、子ども自身もあまり求めていないという実態がある。むしろ、高学年になると、管理される保育から自由になりたいという欲求がある。

2つ目の居場所機能について、この前提となるのは指導員と子どもの信頼関係である。

3つ目の活動拠点としての機能については、高学年になると子どもだけで遊べることも多くなるものの、一方で子どもだけではできない規模や内容の遊びもあり、そうした遊びができるということも大切な機能だと考えている。高学年に対して遊びを通じた発達をどのように保障していくのか、これは学童保育が担う専門性の部分だと考えている。

最後に、高学年の退所問題は全国の学童保育で課題になっている。活動に魅力があり、子どもが通い続けることができなければ、居場所としての機能も果たせないわけで、居場所機能と活動の拠点機能は関連しているものと思う。

○委員

町の放課後児童クラブ出身であることがチャレンジクラブ入会の要件とな

<公開用>

るのか？

○参考人

入所基準があるわけではなく、どんなお子さんでも来ていただける。数は多くはないが、町の放課後児童クラブに在籍していなかったものの5年生から来る子がいたり、他市（長岡京市）から来ている子もいる。

○委員

放課後児童クラブでの4年間の積み重ねがあり、それをさらに伸ばすための場というイメージかと思っていたが、この認識は違うのか？

○参考人

基本的にはその認識で間違いない。ただ、放課後児童クラブのような入所基準はないので、4年生まで学童に通っていなかったものの学童の活動内容に興味があるというご家庭の子は、5年生から来られる場合もある。

○委員

5年生から来られるお子さんも特に支障なく皆と一緒に活動できているのか？

○参考人

できている。

○会長

小学部は在籍人数と開所時間を教えてほしい。

○参考人

現在5年生6名、6年生10名の計16名が在籍している。

開所時間は、水・金曜日は放課後から午後6時まで。土曜日は午後1時～6時まで。放課後に関しては、早い子で午後3時半過ぎにやって来るが、大山崎小学校の子も来ており、遅い子で午後4時過ぎになる。金曜はさらに遅く、午後4時半を過ぎてくる子もいる。

○委員

現在16名とのことだが、増減傾向はどうなっているのか？

○参考人

ここ10年、20年は年ごとの多少の増減はあるがほぼ横ばい。

○副会長

高学年の退所が先ほどから話題になっているが、チャレンジクラブでは、それはどんな理由によるものか。

○参考人

チャレンジクラブでは、毎年途中退所があるわけではないが、実際に退所された方に多い理由は、他の習い事との兼ね合いであると思う。

○会長

~~保護者の方に伺いたい~~が、5、6年生になっても通わせたいというニーズ

<公開用>

は多いのか。把握されていれば教えてほしい。

○参考人

極端に多いというわけではない。保育の中身による、という保護者の意見は多い。

○参考人

現状、4年生までにやめてしまう方が多い。子どもが行きたいというなら行かせたい、という声は聞くが、どうしても高学年まで通わせたいという声は少ない。

○会長

4年生が少ない理由は何か？

○参考人

今の4、5年生は、クラブのエリアが区分け見直しで狭くなったことによる。それ以前はもう少しエリアも広く、4年生の人数ももう少し多かった。

○委員

保護者会で、大山崎町でも「5、6年生の利用が可能になれば利用しますか」というアンケートを実施したのでその結果を述べさせていただきます。

選択肢を4つに分け、それぞれのクラブでアンケートを実施した。

①は、活動内容が継続されるなら利用する。

②は、活動内容がどうであれ利用する。

③は、活動内容がどうであれ利用しない。

④は、上記のいずれでもない。

以下、数字は四捨五入。

なかよしクラブでは①41%、②10%、③21%、④28%、

ともだちクラブでは①10%、②0%、③38%、④50%、

でっかいクラブでは①44%、②9%、③16%、④22%。

今の活動内容が継続されるなら利用したい、という意見が半数近く、活動内容に関わらず利用したい、という意見が10%程度という結果。

<意見交換>

○委員

5、6年生の成長の度合いの観点から留意すべき点について。私自身は、5、6年生を一体とした保育を経験していないが、以前5、6年生を保育した経験のある先輩指導員に話を聞く中で思うところを述べたい。

国の指針の中でも示されているが、11～12歳は第2次性徴期にあたりとされており、男の子も女の子も大きな変化があるデリケートな時期。大人からの自立心や少人数での「秘密の世界」の共有といった難しさがある。

また、より多様な要求を持ち始める時期でもある。成長、発達を捉えなが

<公開用>

ら、多様な要求をどう汲みながら保育を作っていくのか、現場の指導員は専門性が問われると思う。

○委員

居場所機能を果たすために重要となる、指導員と子どもたちとの良好な関係という観点からみると、今の大山崎町の指導員さんの中で定年まで安心して働ける身分の方は3人しかいない。指導員の身分保障をしっかりとしながら、保育内容を継続していく必要があるのでは。

資料3のD市を例にみると、高学年受け入れ開始前後で保育内容は変わっていないとのことで、だから、高学年児童が物足りなさを感じることに繋がるのだと思う。私自身が大山崎の学童保育で過ごしていたときは、学年が上がるにつれて、学童の魅力が増していった。下の学年の子が喜ぶことが、自身の喜びとして感じられた。

活動内容をしっかりと保障するには、まずそこで働く指導員の身分保障が大切で、そうすれば親も安心して子どもを預けられると思う。

○委員

高学年の子どもたちは、低学年の子どもたちのお世話をするのが好き。ただ、それだけでは物足りないと感じる部分があるはず。高学年児童も、自分たち自身が楽しめる活動がまずあって、はじめて低学年のお世話を楽しんでできる。チャレンジクラブは高学年児童だけなのでダイナミックな活動ができるのだと思うが、町の放課後児童クラブに5、6年生が加わったとして、同じように高学年児童も満足できるようなダイナミックな活動ができるのだろうか。

○事務局

私は1年だけ5、6年生を保育した経験があるが、当時5、6年生は(JTクラブとして)独自に活動をされていたので、ダイナミックな取り組みをされていた。一方で、日々の生活の中では、高学年児童は学童で過ごす時間が短い中で、体格差などを考慮しながら低学年の子どもたちと一緒に遊んであげていた。ただ、やはりそれだけでは物足りなさが募るので、高学年児童が全力で体当たりできる大人の指導員の存在は大切であったと思う。

○会長

参考人の方に、こんな活動があれば子どもたちも魅了的に感じるのではないかと、親としても預けたいと感じる、というものがあればご意見を伺いたい。

○参考人

今されている取り組みを、子どもたちの学年に応じて合わせてあげられれば、子どもたちも皆楽しめるかなと思う。上の子が下の子の世話をする、そして、下の子は上の子を見て、こんな風になりたいと感じる。そんな縦のつながりは大切だと思う。加えて、具体的な内容では述べられないが、横のつながり

<公開用>

も大切で、学年に応じた取り組みも入れていただければと思う。

○参考人

3人子どもがお世話になっているが、皆コマや一輪車の遊びは好き。でも、6年生が1年生と対等に遊べるわけではない。5、6年生だけで一定の人数があれば高学年だけでも楽しめると思うが。今も、3、4年生は1、2年生相手にやはり手加減をしているところがある。指導員相手ならぶつかっていいのだが。いずれにしても、子どもたちの人数にもよるが、基本的には今の保育内容を継続してもらえたらと思う。

○参考人

先ほどから、高学年ならではの活動の中身が大切というのは共通の認識として出ていると思うが、その具体の中身が難しいところ。

チャレンジクラブでは、5、6年生のみで、また人数も小規模なのでかなり自由に動ける。例えばおやつにしても、指導員が用意するのではなく子どもたちが自分たちでその日のおやつを選んだり、おやつが減ってきたら、自分たちで考えて買い出しをしたり、あるいは作るという選択をしたり。管理されるのではなく、自分たちの責任の中で自分たちの活動を作ることが、高学年にとっての充実した活動なのだと思う。

○委員

町が5、6年生の受入れを開始すると、チャレンジクラブに加えて選択肢が増えるのか。子どもの取り合いにならないか。

○事務局長

チャレンジクラブに他市から通われているお子さんがおられるように、逆に、本町から他市の放課後児童クラブに通われているお子さんもいるかもしれない。そういった意味では、町が5、6年生の受入れを拡大したならば、皆さんにとっての選択肢が増えるということになると思う。

○会長

チャレンジクラブに町として高学年の受入れを委託することはできないのか。

○事務局長

今は直営で3クラブを運営しているが、可能性としてこの事業の一部を委託するようなことは、近隣の自治体でも実際にされていることなので、受け皿があればそういったことも可能であると思う。

○会長

チャレンジクラブには、放課後児童クラブの入所要件にあたるものがないとのことで、必ずしも簡単な話ではないと思うが、多様な意見を募る場ということなので、述べさせていただいた。チャレンジクラブは高学年の保育に関しての長い実績があり、委託という形に限らず、何か協力いただける形が模

<公開用>

索できればいいのではないか。例えば、保育内容をどうしていくか、ということについて、指導員が相談し、教わるようなことができれば。

○委員

チャレンジクラブとの協力という点では、年に1度、町の3クラブ合同でのふれあいまつりという行事を実施しており、その際、チャレンジクラブにも発足時からずっと参加いただき交流している。今年度も、オリエンテーリングのポイントに、5、6年生が入ってお手伝いをしてくれた。また、保護者会が主催される餅つき大会の折には、チャレンジクラブの保護者会がバザーを出されるといった協力関係もある。

○会長

論点として、今は5、6年生と4年生以下で年齢区分を分けることを前提とされているが、他市町の例を見ていると、4年生以上と3年生以下で分けている例が多い。5、6年生で括るのか、4、5、6年生で括るのかといった論点があってもいいのでは。

それと、人数規模によって活動内容も変わってくると思うので、この点についても考えておく必要があるのでは。

いろんなパターンを考えておく必要があると思う。

○委員

会議資料や国の運営指針を改めて確認しても、学年で分けて運営するという記述はない。実情、分かれているというのは、人数が多いであったり、施設上の制約であったり、やむなく全学年の一体保育ができないといった理由があるのだと思う。

運営指針の中では、異年齢集団での活動を通じた子どもたちの発達、成長が謳われている。大山崎町でも、基本的には大きい集団の1～6年生ということを基本に考えてほしいと思う。

○会長

分けることに関しての基準がなく、それぞれのところで実情に応じて考えられているのだと思う。資料を見ていると、設備面や人数のバランスで分けているように思う。おそらく理想的なのは、発達段階に応じた活動内容を根拠に分ける、ということだとは思いますが。

ただ、どうしても設備と人数が大きな分け方の基準になっている印象がある。

○副会長

保護者の立場で、5、6年生が加わることで懸念されることなどがあれば伺いたい。

○参考人

5、6年生が加われば良い面、悪い面両方あると思うが、懸念と言えば、例えば施設のキャパであったり、子どもたち一人一人性格も違うので、5、6

<公開用>

年生の下の子に対しての関わり方については分からない部分はある。一方で、良い面としては、下の子たちが上の子を見て育つことができる点で、例えばこんなお兄ちゃん、お姉ちゃんのようにになりたい、といった影響を受けることができると思う。年齢のステージによって取り組める内容も異なってくるので、上のステージに向けてのチャレンジ精神を養えることになり、視野も広がるのではないかと思う。

○参考人

私のクラブは1部屋しかないので、5, 6年生がそこに加わるとなると、設備面で大変さはあるかと思う。メリットとしては、学校の敷地内に施設があるのは保護者からすると安心なので、一回家に帰ってからまた歩いて二山校区のチャレンジクラブまでいくとなると心配される保護者もいる。5, 6年生になっても通いなれた学校敷地内の施設を使えるというのは安心。

○会長

委員の方、その他いかがでしょうか。参考人の方にも、もし何かこれまでの議論の経過を踏まえてご意見あれば。

○参考人

全学年が共同で使う設備面で、トイレや着替えの場所などについて配慮が必要になってくるのでは。

○参考人

大事なのは、活動をどのように作っていくのか。高学年ならではの保育内容をどのように保障していくのかがカギになってくると思う。そのためには、専門性を持った指導員の確保が何より重要。場所の問題、人の問題はいずれも大切。5, 6年生の保育に関して、指導員の研修の場も必要では。

○会長

現状、指導員に対する研修の機会はどのように確保しているのか？

○事務局

府の研修受講のほか、各クラブを統括する職員を配置し、日々各クラブを巡回、参観するとともに、元校長職の識見をもって指導員に対する指導や助言をしていただいております、こういったことをもって指導員の知識等の向上を図っている。

○会長

それでは、本日の意見交換は以上とさせていただきます。

本日出された意見は、1つ目には施設・設備のこと、2つ目には指導員のこと、3つ目には保育内容のこと、4つ目には年齢区分や人数のこと、5点目には外部への委託の可能性のこと、その他であったかと思う。

次回、こういった形で本日の意見を整理して提示いただくと、まとめていきやすいと思うので、事務局には資料準備をよろしくお願いしたい。

<公開用>

<次回の日程調整>

※3月28日（木）午後7時～、場所は中央公民館別館第1研修室に決定。

<事務連絡>

※特になし